

# 令和 5 年度 獨協埼玉中学校 自己評価シート

目指す学校像	豊かな感性、健康な心と体を育み、自ら考え判断できる生徒を育てる。
--------	----------------------------------

重点目標	1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。 2. SNSの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。 3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日 現在 )		実 施 日 令 和 6 年 4 月 5 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習、読書・新聞の時間、小テスト、補習など基礎学力の育成に向けて様々な取り組みをしているが、中学から高校への移行期の中だるみの傾向を改善する必要がある。</li> <li>日常の学習習慣の定着。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の内容小テストの実施とその効果</li> <li>興味を持ち自ら目標設定ができているか</li> <li>検定試験の目標設定の明確化</li> <li>学習習慣定着のための試みがなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習、小テストの実施方法、内容の吟味と日常学習の定着を促す。</li> <li>ICTを活用した授業の取り組みを積極的に行う。</li> <li>希望者に対して、授業の枠を外して、興味関心を抱くような課題提供を行う。</li> <li>学年、教科ごとに検定試験の目標を明確にする。</li> <li>放課後の自習教室の設置。</li> <li>もう少し知りたいと思うような、モチベーションアップにつながる授業の展開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な内容と、小テストに対するフォローができたか。</li> <li>学習内容だけではなく、取り組む姿勢に対しても生徒と接点を持つことができたか。</li> <li>より積極的に何かに取り組もうとする気持ちを育てることができたか。</li> <li>検定試験の目標は明確になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の時間が倍の20分になり、小テスト後の振り返りなどの時間が取れた。</li> <li>定期テスト前に補習を実施し、学年の教員が各教科に取り組む生徒の姿勢を確認することができた。</li> <li>自習室を朝も開放した結果、朝の時間を有効に利用する生徒が出てきた。</li> <li>面談を実施し、検定試験への取り組み方を確認した。</li> </ul>	A  A  B  B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の時間を生徒たちだけで実施できるようにする。</li> <li>定期的に面談を実施し勉強面での長所・短所を確認し、目標設定をさせる。</li> <li>自習室を利用する生徒をさらに増やす。</li> <li>講習の検定講座への受講を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標や目的をしっかりと持たせることが、重要である。</li> <li>学校の空気が、よい意味で穏やかであることもあり、のんびりしてしまう傾向の生徒が多い印象である。</li> <li>新規導入した放課後自習教室の、積極的かつ効果的な利用につながる指導をお願いしたい。</li> <li>受験がない分、検定などに積極的に取り組ませてほしい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話の使用法や SNS によるトラブルが後を絶たない。公共の場での使用方法に対する指導も継続して必要である。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話の使用実態の把握</li> <li>SNSの利用法に対する指導状況とその効果の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内での携帯電話に関するルールの徹底と指導。</li> <li>家庭での携帯電話の使用に関して保護者の協力を依頼。</li> <li>携帯電話教室を開催し、主に SNS の利用について講義を行い考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS によるトラブルは減少したか。</li> <li>校内・公共の場・家庭内における携帯電話使用のルールは守られているか。</li> <li>携帯電話教室による効果の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS のトラブルは減少しなかった。</li> <li>校内における携帯電話使用のルールは守れたが、公共の場でのルールを守れなかった生徒もいた。</li> <li>携帯電話のマナー教室を受けた直後は良かったが、残念ながら継続できなかった。</li> </ul>	C  B  B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会などで現状を伝え、学校でも家庭でも使用ルールやマナーについて話をする。</li> <li>HRや道徳を通じて、公共でのマナーについて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も SNS 関連のトラブルが減少することを期待するのは難しいため、家庭の協力が不可欠である。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の安全とマナーの向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の安全とマナーの向上を図る。</li> <li>他者に配慮した行動がとれるよう、道徳心を育む。</li> <li>積極的に挨拶する習慣をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの乗車指導を継続する。</li> <li>試験期間中の通学路での下校指導を継続する。</li> <li>バスや電車内等、公共の場でのマナー向上に努める。</li> <li>教員自ら積極的に挨拶を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗車指導、学校周辺での登下校指導を継続したか。試験中の通学路での下校指導を継続したか。</li> <li>バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。</li> <li>日常生活の中で、積極的に挨拶を行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下校生徒が多い、火・木曜日に下校指導をした。また、試験中も実施した。</li> <li>乗車マナーに関する苦情は度々あった。</li> <li>生徒会の生徒と希望者が、教員と一緒に学校周辺のゴミ拾いをしながら、挨拶運動を実施した。</li> </ul>	A  C  B	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も継続して下校指導を実施する。</li> <li>学年集会を定期的に実施し、マナーについての話を継続的にする。</li> <li>生徒会の挨拶運動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校のマナーの悪さを改善させるため、高校生が良い見本になることを期待する。もっとも課題の多い点だともいえる。</li> <li>生徒会の活動がより一層、活発に行われることを期待している。</li> </ul>

